

# 地域連携・学認に対する意見交換

- 学術認証基盤オープンフォーラム2011 (学術情報センター、2011.6.3)  
「学認を活用した地域連携に向けて」

## 概要報告

大学間や社会産学連携の地域連携をテーマにしたパネルディスカッション

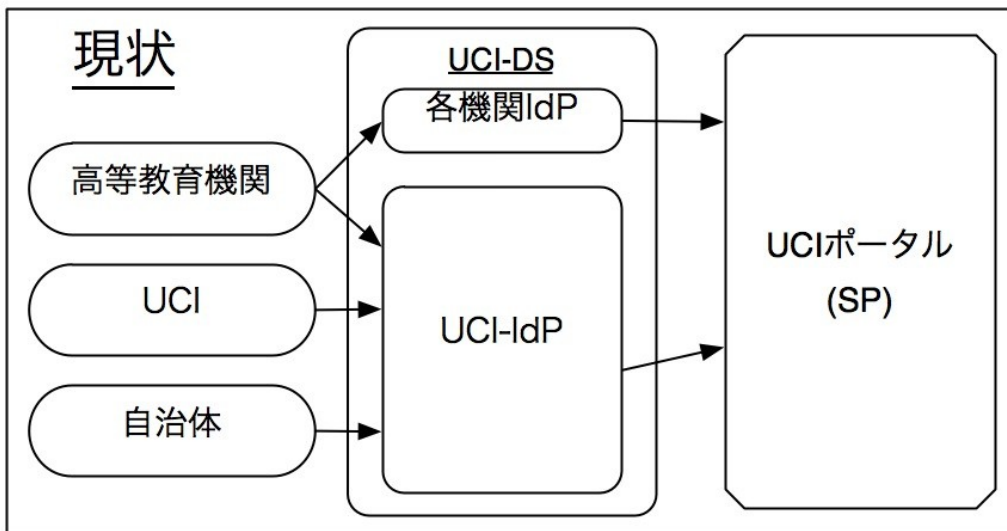
(敬称略)

- ◆ 金沢大学・大学コンソーシアム石川の取り組み  
水元(大学コンソーシアム石川)・笠原(金沢大)
  - ◆ 高等教育コンソーシアム信州における大学間連携用ユーザ管理システムの構想  
鈴木・新村・足立(信州大)
  - ◆ 学認を活用した地域連携に向けて 京都(1) 尾崎(京産大)
  - ◆ 学認を活用した地域連携に向けて 京都(2) 舩田(京都工繊大)
  - ◆ 四国地区大学間e-Learning連携 eK4-Federation 上田・金西(徳島大)
- 
- ✓ 単位互換・e-Learning・共用ネットワーク etc.を目的とした統合認証、  
大学間・地域間連携の現況
  - ✓ 各取り組みにおける問題点と「学認」への期待

# ディスカッション: 主な共通課題

1. 学認の DS を地域フェデレーションでもうまく利用したい
2. 大学以外の構成員から成る、地域のコンソーシアムの IdP を学認に参加させたい
3. IdP 運用側で認識していない、属性を受け取らない SP に自動的に接続される問題を解決したい
4. 学認への参加の敷居を下げる IdP ホスティングサービスのようなものが欲しい
5. 大学で統合認証環境を作りやすい LDAP の大学共通スキーマの必要性

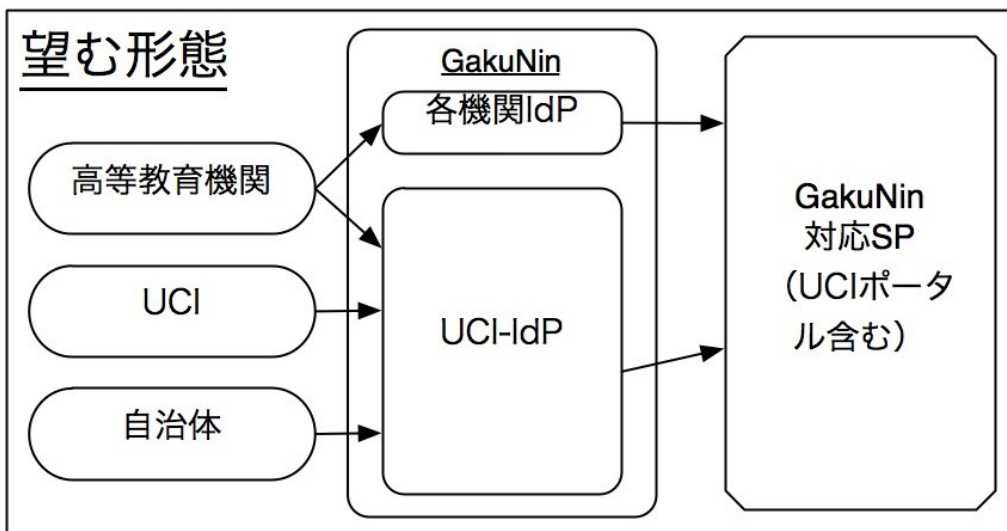
## 現状



- ・現在は、UCI専用のDSを使用している
- ・高等教育機関は、自前のIdPか、UCIのIdPを利用できる
- ・金沢大ユーザーについては、金沢大が運用するIdPへの移行を進めているが、一部調整事項が残っている
- ・自治体、UCIの単位互換講義履修者もUCIのIdPを利用している
- ・利用者は、UCIポータルのみを利用できる



## 望む形態



- ・石川県内でも、複数の機関でGakuNin参加が検討されている
- ・UCIのIdP利用者は、GakuNin対応のSPも利用できるという形にできれば、IdPを提供することで、高等教育機関や自治体にコンソーシアムとして貢献できると考える
- ・UCIポータルの利用者増加が同時に期待でき、県内の高等教育機関・自治体による、UCIポータルを介した情報・知識共有の促進が望まれる

# 学認への要望

# GakuNinへの期待, 要望

- ◆ 全大学への普及を目指して
  - IdP代理構築 (SaaS) (各大学はLDAPだけ用意)
  - 提供できる属性にチェックして作成
- ◆ ヨーロッパのように電子ジャーナルに代表契約して安価にライセンス提供
- ◆ 大学でよく用いられる主要アプリケーションに対するGakuNin対応の呼びかけ
- ◆ SPは必ず何かの属性を受け取って欲しい
- ◆ 秘匿性が保証されたグループウェアSP

# 本事業の現状

- それぞれの大学独自のNWを、個別VPNで他大学に延長する
  - Multiple SSIDを利用。
- それぞれの大学が認証システムを管理・認証をして、認証結果を元に、認可だけをe-ラーニングサーバにやらせる
  - (まさに) Shibbolethでできるのではないか？
    - 限定したフェデレーション
- 学認への期待・課題 (?)
  - Shibboleth対応のASPのようなもの
    - データの取り扱いに安心できるものが嬉しい
  - 参加組織を限定したフェデレーションからの展開スキーム
    - 小規模組織、各種インテグレータに”やさしい”もの



# “学認”(NII)への期待について

## 1. Single Sign Out(SSO)の実現

システムにとってセッションを現実に即して整理したい → システムリソースを有効活用

## 2. フェデレーション内のプライベート(ローカル)フェデレーションの運用

フラットな認証構造では、いろいろ使いづらい面もでてくるかも → 運用の柔軟性を実現するために

- ・システムのアーキテクチャ  
多段DS, 権限に基づく実現等
- ・ポリシーの公開等の管理
- ・ポリシー記述支援ツールの整備
- ・IdP-SP間の運用調整

## 3. 個人リポジトリ情報の体系化についての調査

個人属性の交換で、LDAPのフォーマット一覧みたいなものがあると、SPの追加が簡単に

- ・各大学のLDAPのフォーマットの調査
- ・データ間の連携の為にメタデータベースの整備

## 4. その他

学認が、多くの利用者にとって使いやすい、日本の高等教育機関間の認証の標準インフラとなるために